

28 東京大学生徒岡山兼吉・渋谷慥爾他十三名「学術上に付  
官吏演説の禁を解くの建議」〔明治十三年十月〕

〔表紙〕  
「第百七拾二号 明治十三年十月廿九日 〔元老院受付印〕  
学術上ニ付官吏演説ノ禁ヲ解クノ建議

〔注記〕

明治十三年十月廿九日

神田区錦町三丁目一番地東京大学  
法理文三学部寄留同校生徒

三重県士族

鈴木充美 ⑤

同

愛知県士族

加藤高明 ⑤

同

堺県平民

高橋鉉太郎 ⑤

同

兵庫県士族

下村三一 ⑤

同

高知県士族

白石直治 ㊦

長野県士族

堀田連太郎 ㊦

同

愛媛県〔士族〕〔加筆〕  
〔抹消〕

三崎龜之助 ㊦

愛媛県士族

川田徳〔太〕〔次〕郎 ㊦  
〔抹消〕〔加筆〕

同

山口県士族

田中稲城 ㊦

長崎県士族

澁谷慥爾 ㊦

同

東京府士族

岡山兼吉 ㊦

右充美等頓首再拜謹テ書ヲ

同

石川県士族

横地石太郎 ㊦

元老院議長大木喬任公閣下ニ上ル竊ニ維新以來政府励精  
治ヲ図リ上ハ政法制度ヲ釐革シ下ハ農工商賈ヲ誘掖シ内ハ人民  
ノ幸福便益ヲ謀リ外ハ文明富強ヲ欧米諸洲ニ競ハント欲ス然リ  
而シテ其成蹟ニ至テハ常ニ相反スルノ状アルヲ奈何セシ彼法制  
ハ姑ク之ヲ舍ク政府百方尽力シテ貿易ヲ勧誘スルモ商賈常ニ相  
競ハサル如ク農工ヲ奨励スルモノ物産ハ常ニ殖セサル如シ坐シテ  
海外の供給ヲ仰キ出ス所入ル所ヲ償フニ足ラズ金貨濫出シ財用  
亦從テ壅塞ス且夫鉄道ナリ電信ナリ造レ艦ナリ建レ屋ナリ鋳業  
ナリ蒸氣機關ナリ百物製造ナリ一トシテ巨金ヲ費シ外人ヲ用キ  
サルモノナシ而テ我国人ハ徒ニ其指揮ヲ仰キ使役ニ供スルニ過  
キス是ヲ以テ外人侮慢蔑視貧婪詐偽至ラサル所ナシ是時ニ当リ  
苟モ国家ノ為メニ慮ル者宜ク実学ヲ修メ実効ヲ奏シ以テ国弊ヲ  
洗除スルヲ是勉ムヘシ而テ世ノ学者志ヲ高上ニ馳セ口舌ノ巧弁  
ヲ尚ヒ徒ニ空理空論ヲ政談上ニ求メ実理実効ヲ講習上ニ遺シ甲

同

愛媛県〔士族〕〔平民〕  
〔加筆〕〔抹消〕

穂積八束 ㊦

同

高知県士族

大八木喬梁 ㊦

同

同

福岡県士族

鶴原定吉 ㊦

同

同

同

唱へ乙和シ彼雷シ是同シ其勢滔々將サニ禦クヘカラザル者アラ  
ントス夫レ此ノ如クニシテ人民ノ便益幸福ヲ謀リ文明富強ヲ歐  
米諸洲ニ競ハントスルハ猶木ニ縁テ魚ヲ求ムル如シ抑亦難哉是  
充美等ノ常ニ慨歎已ム能ハサル所以ナリ充美等以謂ク彼政談ノ  
事固ヨリ無用ニ非ス然レモ方今学士ノ務猶是ヨリ急ナルモノア  
ラン充美等ノ見ル処ヲ以テスレハ專ラ実学ヲ講窮スルニ在リ実  
学トハ何ソヤ実理実効ヲ講窮シテ人倫日用ノ外ニ出テス百般ノ  
技芸ニ練熟シ機器妙用ヲ發明シ物産ヲ増殖シ国ヲ富マシ財ヲ長  
シ以テ自ラ養ヒ人ヲ養フノ術ヲ善クスルノ謂ナリ請フ試ニ其一  
ニヲ論セン夫鉄道ヲ布クナリ電信ヲ架スルナリ家屋ヲ建ルナリ  
運河ヲ鑿ツナリ道路橋梁ヲ修築スルナリ曰ク水理曰ク測量曰ク  
灌溉悉ク工学ニ依ラザルモノナシ然レモ鉄道電信ノ如キ人々皆  
能ク知ル所此ニ贅セス今夫一家屋ヲ建築スルニ当リ工学ノ原理  
ニ基キ物質ノ強弱ヲ考ヘ預メ之カ計画ヲナスハ少量ノ材料ヲ  
以テシテ能ク堅牢ノ結構ヲ成スヲ得ヘシ若シ否ラスシテ經驗ト  
憶測トヲ以テスル吾邦今日ノ如クナレハ縱令僅ニ能ク其堅牢ヲ  
得ルモ已ニ無益ノ材料ヲ費スヲ免レス然レモ木材ハ猶可ナリ他  
日工業進歩シ大ニ鉄材ヲ要スルノ日ニ至ラハ其冗費果シテ如何  
ソヤ況ヤ之ヲ以テ大橋ヲ架シ巨廈ヲ築カントスルノ時ニ於テヤ  
ヤ現ニ今日其鉄橋ヲ架シ其建築ヲ為スニ当リ或ハ工学ノ原理ヲ  
誤リ或ハ巨額ノ冗費ヲ出スモノアリト聞ク若シ我国人ヲシテ之  
ヲ為サシメハ猶恕スヘシ今之ヲ託スルモノハ彼貧婪詐偽ノ外国  
人ニシテ我国人ハ唯其驅使勞役ニ供シ會テ一人ノ其誑欺ヲ知ル  
モノナシ豈悲シカラスヤ然ラハ則其原理ヲ求メス徒ニ其工技ノ

末ヲ事トス其弊タル勝テ数フヘカラス是レ今日工学ノ講セサル  
ヘカラサル一端ヲ見ルニ足ルナリ夫レ無用物ヲ變シテ有用物ト  
ナシ一物ヲ變シテ數体トナシ各其用ニ適セシムルヲ得(採道)  
〔ル者〕是レ製造化学ノ大旨ナリ今一塊ノ石炭ナリ直ニ之ヲ用ユ  
レハ一體一用ニ止ル若夫レ然ラスシテ之ヲ乾溜スルハ或ハ固  
体トナリ或ハ氣體トナリ或ハ液体トナル固体之ヲ燒ケハ激烈ナ  
ル蒸氣力ヲ發シ以テ汽船ヲ馳セシムヘク以テ汽車ヲ走ラシムヘ  
シ所謂骸炭コーク是ナリ氣體之ニ点火セハ爛々タル光輝ヲ發シ以テ満  
街ヲ照ラシ夜景ヲ粧フヘシ所謂瓦斯灯是ナリ液体ニ至テハ一變  
シテ「タール」トナリ再變シテ石炭酸トナリ染料(加染)「トナリ」  
「ケレオソート」トナル石炭酸ノ虎列刺病ニ於ル「ケレオソート」  
ノ木材ヲ保存スルニ於ル有用一日モ欠クヘカラサルモノタルハ  
皆人々ノ知ル処ナリ染料ニ至テハ其色甚タ美麗ナリ西洋今日絹  
布毛布ヲ染ムル專ラ此料ヲ用ユ彼「ベンゾール」「アンスラシ  
ーン」ト称スル者ニシテ其色ノ種類殆ント數万ノ上ニアルト云  
フ茲ニ其比例ヲ挙ケンニ一噸即二千二百四十磅ノ石炭ヲ以テス  
レハ千七百八十磅ノ骸炭コーク一万五千立方尺ノ瓦斯七磅ノ石炭酸二  
十二磅ノ「ピッチュ」一磅半ノ「ベンゾール」一磅ノ「アンス  
ラシーン」ヲ得ヘシ其利ヲ問ヘハ直ニ石炭ヲ用ユルノ利ハ骸炭  
瓦斯ニ變シテ之ヲ用ユルノ利ニ及ハサル遠シ而ルヲ況ンヤ彼徒  
來無用物ト称スルモノヨリシテ石炭酸「ピッチュ」「ベンゾー  
ル」「アンスラシーン」等ヲ得ルニ於テヤ其利推シテ知ル可  
キナリ而テ化学ノ用豈惟此ニ止マランヤ今飲用ノ水中ニ於テ若  
シ虎列刺病「タイホイド」熱病等ノ如キ患者ノ吐瀉物ヲ浸潤ス

ルアラハ其病ヲ伝染シ又ハ其水中ニ於テ有機物ノ多量ヲ含ム片ハ仮令格段ノ毒物アラザルモ大ニ健康ヲ害スル者アルハ衛生上ニ於テ確認スル所ナリ然ラハ則チ衛生家ノ尤モ注意スベキモノハ飲用水中毒物ノ有無ト有機物ノ分量ヲ検スルニアリ而テ之ヲ検スル者ハ分析化学ノ力ニ依ラサルヘカラス且化学上ヨリ論スレハ彼石炭ヨリ乾溜シタル「タール」中ヨリ藍靛ヲ得ヘキノ理アリトス化学ノ功亦偉ナリト謂フヘシ亦以テ化学ノ今日ニ講セサルヘカラスナル一端ヲ証スヘキナリ夫土地沃饒天府ノ国ニシテ而テ尤モ鉞山ニ富ムトハ是我国人從來稱スル処ニシテ外人亦之ヲ信シタリ今ヤ學術稍開ケ外人亦内地ニ入り実見スルニ及ヒ始テ此言ニ疑ヲ生シ天府ノ国ト否トハ実ニ現今ノ一大疑獄タリ果シテ天府ノ国タラシメンカ我国ノ物産ヲ殖シ貨財ヲ長スル者ハ農鉞ニ業ニ在テ其盛衰ハ国家ノ強弱ニ関ス則農鉞ノ事益勉メサルヘカラス若シ天府ノ国タラザラシメンカ則チ国是ヲ一変シテ或ハ通商ヲ専ラニシ或ハ工業ヲ專ニセサルヘカラス而テ此疑獄ヲ判決スルモノ亦學術ノ力ニ依ラサル可ラス是今日内務省ニ於テ地質測量課ノ設アル<sup>(抹消)</sup><sub>(加筆)</sub>〔<sup>抹消</sup>所<sup>加筆</sup>〕以ニ非スヤ且夫レ農鉞ノ二業ヲ拡張スル亦各其學術ニ依ラサルヘカラス試ニ農業ヲ以テ之ヲ云ンニ妄ニ収穫ヲ土壤ニ貧リ年々培養スルノ肥料ヲ施サ、レハ随テ地質ノ瘠瘁ヲ生ス彼「ペルシヤ」「アルゼリヤ」等ノ諸國此理ヲ了知セスシテ大ニ衰微ノ状ヲ表スルハ世人ノ能ク知ル処ナリ現ニ我國駿河ノ地質ノ如キ肥料ヲ用ヒスシテ数年ノ間耕耘スル時ハ必ラス地味衰微セサルヲ得スト云フ是理學士其氏ノ実験スル所ナリ而テ地味ノ肥瘠肥料ノ良否ヲ檢シ彼レノ植物ハ此

地ニ適シ此レノ植物ハ彼地ニ適スルヲ知ラント欲セハ學術ヲ舍テ之ヲ他ニ求ム可キモノアランヤ亦以テ農學ノ講セサルヘカラスルヲ証スルニ足ル其他物理学ノ如キ生物学ノ如キ器械工学ノ如キ一々スルニ暇アラサルナリ論者曰ク当今ノ実學ト稱スル者大率空理ノミ決シテ實際ニ適セス例ヘハ今日我國ノ鉞業ナリ外人ヲ聘シ法ヲ泰西ニ取り攷々事ニ從フモ二三ノ鉞山ヲ除クノ外其所得常ニ其所失ヲ償フニ足ラス宜シク彼ノ空理ヲ排斥シ我ノ旧法ヲ墨守ス可シト嗚呼何ソ其志ノ遠大ナラスシテ其言ノ淺狹ナルヤ何トナレハ則チ論者ノ言フ所ハ泰西鉞山學ノ真理ニ合スルト否トヲ論スルニ非スシテ之ヲ實施スルニ於テ適其當ヲ得サル者アルヲ咎ムルニ過キス其當ヲ得サルハ其人ニ存ス決シテ學術ノ罪ニ非サルナリ其人トハ何ソヤ彼貧婪詐偽ナル外人ニ非スヤ假令學術アラシムルモ心術果シテ國家ノ為メニ凶ルト否トハ論者ノ能ク知ル所其所為ニ至テハ實ニ言フニ忍ヒサルモノアリ況ヤ學術ノ有無ハ吾國人ノ之ヲ知ル者ナキニ於テテヤ而シテ論者進テ實學ヲ修メ外人ヲ攘斥スルヲ勉メスシテ退テ縮躄恐怖旧法ヲ墨守セントス果テ如レ此ナレハ則何日カ能ク我國歩ヲ進メ彼ト競争スルヲ得ンヤ若夫レ採鉞ノ事我ノ彼ニ及ハサル所以ハ請フ一例ヲ挙テ之ヲ陳セン我國從來ノ方法ヲ以テスレハ常ニ鉞脈ヲ逐テ採取スルヲ以テ坑口接近ノ地ハ空氣善ク流通シ且鉞物ヲ運搬スルニ易シト雖ヒ其漸ク進ムニ從ヒ坑道縱橫或ハ屈曲シ或ハ上下シ水準ヲ下ルニ至テハ水多ク噴出シテ空氣ヲ阻礙シ運搬モ亦便ナラス是ヲ以テ鉞物猶富ミ前途十分ノ望アル者ト雖ヒ半ニシテ業ヲ廢セサルヲ得ス且ツ人ノ性命ヲ短縮スル實ニ驚ク

ヘシ現ニ実験スル所ヲ以テスレハ坑夫ハ大率二十歳前後ヲ以テ死亡シ仮令死亡セサルモ身体羸弱復タ用ユヘカラズト若シ泰西ノ法ヲ以テスレハ預メ適宜ノ地ヲ撰ヒ或ハ縦坑ヲ通シ或ハ衡坑(マツ)ヲ掘リ或ハ斜坑ヲ穿チ適當ノ器械ヲ設ケ運搬ヲ便ニシ空氣ヲ通ス亦著ク人命ヲ害セス是ヲ以テ大ニ人力ヲ省キ費用ヲ減シ天府ノ富ヲ採取シ遺ス所ナシ是豈実学ノ空理虚談ニ非サルヲ見ルニ足ラスヤ論者又曰ク我国従来ノ製造品ニシテ能ク外人ノ嗜好ニ投スルモノアリ而シテ今ノ学者徒ニ新ヲ好ミ旧ヲ厭ヒ以テ之ヲ変改シ却テ其声価ヲ墜セリ故ニ我ノ旧物ヲ保存シ彼術ヲ恃ムナキニ如カスト充美等以為ク果亦特ニ其人事情ニ通セサルノ過ノミ學術ノ罪ニ非ルナリ夫我国従来ノ工業ニ於ル改良スヘキ者一ニシテ足ラス則此學術ノ如キ縦令此ニ不利ナルモ豈彼ニ利アラサルヲ知ランヤ且物其害ヲ悪ンテ其利ヲ遺シ併セテ其学ノ無用ヲ説クトキハ天下一ノ実学ナク一ノ実学者ナカルヘシ則チ豈我國ノ進歩ヲ他日ニ見ルヲ得ンヤ論者又曰ク物ニ本末アリ事ニ緩急アリ国会ハ本ナリ急ナリ実学ハ末ナリ緩ナリ国会一タヒ立テハ人民進取ノ氣力ヲ發生シ自治ノ精神ヲ揮擲スルニ至リ実学ノ如キハ期セスシテ振起スヘシト此論ヤ充美等其然ルト否トヲ保スル能ハサルナリ何トナレハ仮令国会立テ実学自ラ起ルトスルモ国会今日立テ実学明日起ルノ理アランヤ蓋シ実学ナルモノノ決シテ一朝一夕ニ振起スヘキ者ニ非ルヲ以テナリ且国会ノ立ト否トハ今日二期スベカラズ況ヤ其立モ実学ノ起ルト否トヲ恃ムヘカラサルニ於テヤ是レ充美等力断然今日ニ於テ実学ノ振起セサルヘカラサルヲ主張スル所以ナリ然リ而シテ実学ヲ振起スル

ハ易カラズ抑吾国従来ノ習慣タル人ニ職事ノ別上下ノ分アリテ而シテ学ヲ勤ムルモノ唯士ニ止ル然レドモ其学タルヤ専ラ政事道德ヲ講シ講習ノ事或ハ空虚ニ亘リ事情ヲ離ル、モノ少ト為サス而シテ他ノ三民ニ至テハ愚ニ甘ンシ陋ニ安ンジ僅ニ其事ヲ營ミ其生ヲ治ルノミ是ヲ以テ士ハ農工ノ事ヲ賤テ之ヲ斥ケ農工モ亦士ノ学ヲ指シテ迂濶トナシテ顧ミス状勢已ニ此ノ如シ吾邦実学ノ起ラサル固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ維新以降教育ノ法頗ル面目ヲ改ムトイヘ任其余弊未タ全ク脱セス今日ニ至ルモ猶ホ実学ヲ講スル者寥寥晨星ノ如ク而シテ政事ヲ議シ空理ヲ談スル者滔々皆是ナリ此時ニ当リ陋習ヲ破リ実学ヲ起サントスル豈難カラズヤ充美等熟思スル茲ニ日アリ頃ロ一策ヲ得タリ策トハ何ゾヤ日先ツ天下ノ人ヲシテ実学ノ何物タルヲ解シ其有用ナルヲ知ラシムル是ナリ則人々此学ヲ貴重スルノ風生シ亦自ラ其学ヲ講シ其事ニ従フニ至ルベシ而シテ之ヲ解知セシメントセハ學術演說会ヲ設ケ先進者ヲシテ其何物ニシテ何用ヲ為ヲ説カシムルヨリ先ナルハナシ然リ而シテ今一事ノ進路ヲ阻礙スル者アリ何ゾヤ彼先進者タル者大率其学ヲ以テ朝ニ官ス朝ニ官スル者演說ニ従事スルハ曩ニ政府ノ禁スル所タリ是ヲ以テ彼輩皆口ヲ噤シテ言フ所ナシ於是乎學術ノ演說ヲ論壇上ニ見ル能ハズシテ唯政談家ノ曉々タルヲ聞ノミ嗚呼実学ノ今日ニ急務ナル其レ此ノ如シ而シテ世間之ヲ講スル者寥寥タルヲ見レハ則他日吾国ノ形勢果シテ如何ゾヤ思テ此ニ至レハ慨歎セサラント欲スモ豈得可ンヤ伏テ望ラクハ

閣下此ニ見ルアレハ速ニ政府へ建議シ此禁ヲ解キ先進者ノ官ニ

在ル者ヲシテ學術ヲ演説スルニ自由ナラシメン<sub>ト</sub>ヲ其政談ノ事  
ニ至テハ則旧ニ依ル固ヨリ其宜也此ノ如クナレハ則世間空論虚  
談ヲ勤メス人々実学ヲ貴フノ風ヲ生シ人民進取ノ氣力自ラ發達  
シ自治ノ精神自ラ振作ス可シ必シモ政府ノ勸誘奨励ヲ待タザル  
ナリ若夫物産ヲ繁殖シ貿易ヲ旺盛ニシ電信架セサルナク以テ通  
信ヲ便ニシ鐵道布カザルナク以テ運輸ヲ利シ國威ヲ海外ニ伸暢  
シ國基ヲ万世ニ保持スルハ則皆原ヲ実学ノ効ニ取ラサル無シ亦  
何ソ疑ハンヤ充美等恐懼懇願ノ至ニ堪ヘス

(注記1)

「三十四」(簿冊内件名番号)

〔明治十三年自十月  
至十一月 公文附録〕  
〔元老院之部三〕 2A, 10-②2721〕